any

ars nova yamaguchi

「エニー」

winter 2017
Jan.—Mar.

99

特集

YCAMバイオ・リサーチ・プロジェクト

津田和俊＋伊藤隆之 インタビュー

any
ars nova yamaguchi

99
winter 2017
Jan.— Mar.

平成29年1月1日発行
発行:公益財団法人山口市文化振興財団
本誌記事の無断転載を固く禁じます。

C O N T E N T S

特集
03 “バイオ”を
リサーチせよ！
YCAMバイオ・リサーチ・プロジェクト

ピックアップイベント
08 新しい年、2017年が
産声をあげました！

山口情報芸術センター
Perception Engineering キックオフ—つなげる身体
身体の可能性、その先へ

グループ展「ヴァニシング・メッシュ」
急速に発展するメディアテクノロジーをとらえ、新たな表現へ挑む

中原中也記念館
第14回テーマ展示「私が選ぶ中也の詩」
みんなで探る、中也の詩の魅力

山口市民会館
第44回市民コンサート～あの名演奏をもう一度
心に残る名演奏を分かち合う

きかんしゃトーマス　ファミリーミュージカル
「ソドー島のたからもの」
トーマスやパーシーに会いに行こう！

12 any通信
◎アーティストボイス　カニエ・ナハ（詩人、デザイナー）
◎お先に試写しました　「グレート・ミュージアム　ハプスブルク家からの招待状」（ヨハネス・ホルツハウゼン監督）
◎いらっしゃいませ　ヤマキッチン（YAMA KITCHEN）
◎GOOD GOODS　ヤマキッチン×シマセラミカ「オリジナルガラス容器」
◎My Favorite　藤山正直（中原中也記念館 職員）

14 イベントカレンダー　1～3月
INFORMATION

any（エニー）とは、ラテン語の「新芸術（=ars nova）」と「山口（yamaguchi）」の頭文字を組み合わせた言葉です。

“バイオ”をリサーチせよ！

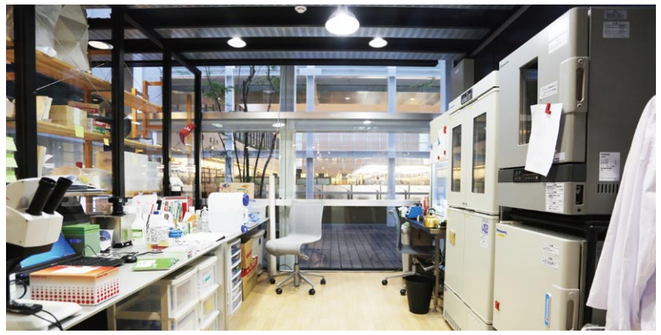
特集　「YCAMバイオ・リサーチ・プロジェクト」
インタビュー　津田和俊（研究者）＋伊藤隆之（YCAM InterLab）

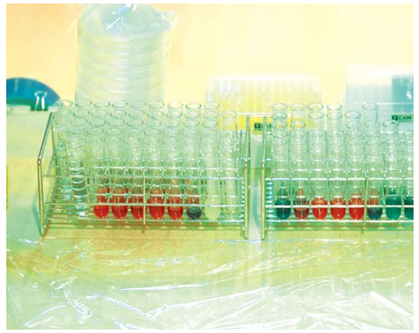
オープンデイの様子。バイオラボの実験器具を触ることができるミニワークショップを行い、多くの子どもたちが参加した。

「バイオテクノロジー」と聞けば、DNA鑑定や遺伝子組み換えなど、なんとなく危険なイメージもあり、自分には無縁だと思っていた。だが、YCAMはその“バイオ”の世界に一歩踏み込み、いくつかの企画を展開し始めた。研究者でもない専門外のYCAMスタッフがどのような切り口で取り組んでいるのか？ YCAMバイオ・プロジェクトの始動に中心的な役割を担ってきたYCAM InterLab課の伊藤隆之さんと、ファブラボ北加賀屋（大阪市）を立ち上げ、現在はYCAMを拠点に活動している津田和俊さんのお二人にそもそも「バイオって何なの？」というところから、バイオに秘められた様々な可能性についてお話を伺いました。

インタビュー写真:田邊アツシ　イベント写真:大林直行（101DESIGN）

YCAM内に設けられたバイオ・ラボ。





色々調べていくうちに、バイオに取り組むことの可能性を感じたんです。

伊藤隆之 ITO Takayuki

1978年生まれ。東京都出身。2003年4月、YCAMの開館準備室に音響エンジニア／プログラマーとして着任。05年ごろからはYCAMが発表する委嘱作品における技術面のディレクションへ業務内容が移行。09年9月、文化庁新進芸術家海外研修制度でニューヨークへ渡り、1年間滞在。帰国後は、主にYCAMの研究開発プロジェクト全般のディレクションを担当。

「バイオ」と聞くと大学などの研究機関で遺伝子を取り扱う、どちらかというと怖いイメージがありますが、そもそもお二人はバイオをどうとらえているのでしょう。

伊藤　僕らが扱おうとしているのは、いわゆる「バイオテクノロジー」のことを指します。バイオ＝生物・いきものの仕組みをどう扱うか、その技術のことです。バイオ自体には古い歴史があって昔から扱われていた研究分野ではありました。ここ最近は、プロフェッショナルな研究者たちの手によるものだけではなく、一般の人たちの手に届く範囲にバイオテクノロジーがやってきていると思います。たとえば、唾液からその人のDNAを全部チェックして健康の指標を教えてくれるサービスが出てきたり、植物のDNAを調べることで種類が分かるなど、いきもののすべての情報がデータ化できるようになってきた。いまバイオの世界がどんどん変わってきています。津田さんはどうとらえています？

津田　バイオというのは、確かにバイオテクノロジーを指していますが、「バイオ」と短くして略称で呼んでいるのは、もう少しカジュアルにとらえていることの現れだと思います。たとえばファブリケーションを「ファブ」と呼んだり、パーソナルコンピューターを「パソコン」と略したり。そうすることでもっととつつきにくいと思っていた技術が身近になっていく。最近は「DIYバイオ」や「キッチンバイオ」といった言葉も出てきて、バイオテクノロジーを自分たちの技術として取り込もうとする動きがある。専門家じゃない人たちでもバイオテクノロジーを取り扱うことができるようになってきています。キーワードとして「パーソナルバイオテクノロジー」という言葉があげられるのですが、コンピューターも最初は一部の人しか使えませんでしたが、どんどん浸透して、そこからその先にパーソナルコンピューターが出てきたのと同じように、テクノロジーというのもどんどんパーソナルな技術になっていく。そういうところを見越して、「バイオ」という短い言葉になっているんじゃないでしょうか。

なぜ、いまYCAMでバイオを取り扱ったプロジェクトを始めようと思ったのでしょうか？

伊藤　2014年の5月にMITメディアラボ所長の伊藤穰一さんが主催の「ソリッド・カンファレンス」という研究会がサンフランシスコであり、それをたまたま見に行かせてもらえたんですが、そこで感じたのは、アメリカではそういったパーソナルバイオや、様々な異分野とのコラボレーションの大きな流れが本格的に始まっているんだということ。実はこの時期アジアにも同じような動きはあって…。YCAMで2014年に「地域に潜るアジア」という展覧会を企画したときに、何組かのアジアのアーティストを招聘したのですが、インドネシアのジョグジャカルタから来ていたヴェンザ・クリストというアーティストもそのなかにいて、当時彼はその潮流のなかのアジアでは最先端にいた人でした。彼らはバイオテクノロジーの研究者をメンバーに率いれ、バイオの技術を取り入れたアートプロジェクトや作品をすでに作り始めていたんです。そんな彼らとの交流を持ちつつ、サンフランシスコで「バイオをめぐって色んなことが起こっているんだな」と思ったのをきっかけに、気になりだして、色々調べていくうちに、バイオに取り組むことの可能性を感じたんです。バイオの機材にかかるコストがかなり下がっているというのもその背景にはあって、高い費用を払わずにスタートすることができる。たとえばDNAを解析するためのコストは2001年から比べると10万分の1に。それって1000万円かかっていたのがいまは100円しかかからないということですよね。10数年前には相当大きな予算をとった研究所でしかできなかったのが、いまは個人ができるレベルになってきているんです。

津田さんはもともとバイオテクノロジーに関心があったんですか？

津田　さっき話に出たアーティスト、ヴェンザ・クリストたちとの交流があったというのもあるけど、自分自身がもともと、バイオマスなどの自然資源の循環を研究していたというのがあります。循環型の社会をつくっていくためには、分解する仕組みを持っている自然の生態系に学ぶ必要があります。あとは(大阪の北加賀屋で)ファブラボをやっていたのもあります。ファブラボではインターネットやパソコンに接続された工作機械を使い、情報を共有しながらいろんな地域のニーズにあったものを作ることができます。その延長上に人工物をつくるだけじゃなく、生物のことも研究するという発想も出てきた。そんなつながりからバイオを扱った施設「コミュニティ・バイオラボ」とのネットワークもできてきて、バイオテクノロジーを扱うラボも増えてきていたし、そういった人たちとの交流もでてきたころだったので、YCAMから一緒にプロジェクトに関わりませんか？と声がかかったのは、いいタイミングでもありました。

きちんと理解しておくことが大事。だからこそYCAMが取り組むべきことの一つだと思ったんです。

伊藤　バイオテクノロジーについて様々な人たちの話を聞いていると、これは世の中が変わるかもしれないなという予感がするんです。世の中がどんどん変わっていく中でDNAは個人情報も含まれるものだし、だからこそみんなが理解しておくことが大事だと。そういう意味ではコンピューターもそうじゃないでしょうか。いまコンピューターに対してきちんと理解しておくことが自分の身を守ることになるし、生きていくことの糧にもなる。必ずしもコンピューターのようになるかは分からないけど、バイオもそういうことになるような気がしています。だからこそ「これ(バイオ)はYCAMが取り組むべきことの一つだ」と思ったんです。

わかる！キーワード

【バイオマス】　エネルギー源として利用できる生物体、また、それらの生物体をそのように利用することを意味する。バイオマスを用いた燃料や発電は、化石燃料の代替として利用することが可能なため、資源の枯渇や気候変動対策のひとつとして注目されている。

バイオテクノロジーが「バイオ」と短く略されるようになったのは、その技術がより身近にパーソナルになってきたから。

津田和俊 TSUDA Kazutoshi

1981年、岡山県新庄村生まれ。2010年からファブラボのネットワークに参加し、13年春、その拠点のひとつとしてファブラボ北加賀屋(大阪市)を共同開設。ものの流れや循環に着目しながら、自然環境と人との関係性について考察している。共著に『FABに何が可能か』など。15年まで、大阪大学助教。16年から山口市に滞在。

僕たちにとってパソコンよりもバイオのほうがもっと身近なのかも。それはお客さんの反応を通じて思ったことですね。

プロジェクトを準備するうえで、たくさんの方に協力していただいたと聞きましたが。

伊藤　ラボの設立に山口大学の赤田先生にお世話になっていますし、ラボでどういうことをしていいのかしちゃいけないのかという指針を作るのにいまでも大変お世話になっています。ほかにも山口の人だと麹づくりのワークショップの講師になってくださった農家の吉松さんだとか。あとは去年レクチャーにもお呼びしたBCLというグループにもすごくアドバイスをもらったし、酵母のことでは津田さんが前勤めておられた大阪大学の先生たちにもお世話になったり…。

津田　あと国の研究機関だとか、ファブラボの人たちもですね。

伊藤　自分たちだけではよくわからないことが多すぎて、だからこそたくさんの外部の人たちとつながることができたんだと思います。

具体的にはどのようなアプローチでこのプロジェクトに取り組んでいるのでしょう？

伊藤　いままでバイオを取り組んだことがなかったので、どういうふうに取り組むかということをすごく考えたのがここ1〜2年です。どういうやり方だったら僕たちがリサーチして取り組んできた、ある意味ではバイオの世界のすごく基礎的な部分をきちんとみなさんに紹介できて、かつそれを見る側にも面白いと思ってもらえるものになるのか。その一つの答えが昨年行ったレクチャーシリーズ「アグリ・バイオ・キッチン」でした。「アグリ」「バイオ」「キッチン」というそれぞれのテーマにそって講師をお呼びし、その3回のレクチャーでお客さんだけではなく我々も学ぼうと考えて実施しました。今年はもう少し主体性をもって自分たちがリサーチしたことを、展示という形で紹介し、それを見に来てくれた人たちと一緒にシェアしながら前に進めないかなと。今年は年間6回のオープンデイを開催することを決め、1回ごとに違うテーマを設定してそのテーマごとに色んなことを調べ、様々な人に会いに行き、たくさんの実験もしてその結果をできるだけ分かりやすく展示で紹介していこうと決めてやっています。

津田　1回目は「パンと酵母」(6/25)、2回目は「発酵とDIY」(7/9)、3回目は「森のDNA」(10/8)、4回目が「ヒトと共生微生物」(11/12)、5回目が「生物とプログラミング」(12/10)、そして最後に「細胞と遺伝子」(2/11)をテーマに決めました。それぞれバラバラで考えて準備を始めたのに、いざとなったら、チラシに「キッチンからはじまるバイオ」と書いているとおり食につながるようなテーマから始まって、遺伝子の話へとつながったので、いい流れになったなと思っています。

すでに数回オープンデイを開催されていますが、参加された方の反応はどうでしょうか？

伊藤　もちろん展示会場を素通りしていく方もいらっしゃいますが、立ち止まってくださった方は熱心に耳を傾けてくれていますよ。最初の2回(「パンと酵母」、「発酵とDIY」)は家族連れに大人気だった「コロガルガーデン」という展覧会の会期と重なっていたので、館内には子どもたちやその親たちであふれかえっていて、その影響もあって待ち時間に多くの家族が見に来てくれました。客層は想定していたのとは違っていたけど、バイオで使用している機材に触ることができるミニワークショップに展示開始から展示終了時間までずっと人が並びっぱなしで、とくに親御さんが喜んでくれていました(笑)。YCAMでいままでやってきたようなコンピューターを使った展示よりも楽しんでくれる年齢層の幅が広くて、それはなんでなのかな？と考えたんですが、ある意味では、僕たちにとってパソコンよりもバイオのほうがもっと身近なのかもしれません。もちろんバイオという言葉はまだそんなに身近じゃないでしょうが、酵母や発酵といったテーマは、たとえば天然酵母パンを作っているお母さんたちにとってはパンを焼くということとつながるし、4回目の「ヒトと共生微生物」というテーマでは土の話をおもに扱っていたので、割とご年配の方が熱心に話を聞いてくれたり、家庭菜園をされている方や農家の方にとっては意外と身近なのかも。それはお客さんの反応を通じて思ったことですね。

津田　バイオは、昔はもっともっと身近だったんだと思うんです。食べることや健康のこと、農業などライフスタイルのなかに根付いていたと思うんです。実際にバイオを進めていくうえで、山口、あるいは地方でこういったプロジェクトをやる意義というのを感じています。山があって、畑がある、そういったバイオのフィールドがすぐ近くにあることがすごく説得力をもちますし、農家の人や地域のことに詳しい人などアドバイザーにもすぐアプローチしやすいですし。

2月のオープンデイは「細胞と遺伝子」というテーマになっていますが、実際にはどんな展示を構想されていますか？

伊藤　まだはっきり決まったわけではないですが、2012年のノーベル賞受賞で話題になったiPS細胞について紹介できないか、YCAMのバイオメンバーで現在色々と検討中です。だからいまはまだ詳しいことはお伝えできないのですが、鋭意準備中というところです。

いままでリサーチしてきたことを蓄積し、それを生かして、来年度以降につなげていきたいですね。

来年度以降についてはどんな展開を考えていらっしゃいますか？

伊藤　いままでリサーチしてきたことを蓄積し、それを生かして、来年度以降につなげていきたいですね。たとえば来年は2つワークショップをやろうと話しています。どちらも基本的にはいままでのワークショップと同様に子どもから大人まで幅広く参加できるようにしたいと思っています。そのうちの一つは2016年10月にやった「森のDNA」というテーマのオープンデイのときに、山口市内の仁保という場所にある森の中で行われたツアーの一環でバイオのワークショップをやらせてもらったことがあって、そこでは森で採取して持ち帰った植物からDNAを抽出して解析したDNAのデータをもとに「森のDNA図鑑」をつくる、ということをやったんですが、それがとても好評だったのもあり、その拡大版というかもう少し突っ込んだ内容なものをしてみようかと。森でキャンプをしようかという話もでています。もう一つのワークショップについてはまだ秘密です(笑)。

YCAMバイオ・リサーチ・プロジェクト
次回オープンデイ：
「細胞と遺伝子」
2017年2月11日(土)
13:00〜17:00
会場：山口情報芸術センター
コミュニティスペース
参加無料

PRESENT

「YCAMバイオ・リサーチ・プロジェクト」に関係するグッズをプレゼントします。

【申込方法】ご希望の方は下記のプレゼント番号を明記の上、住所・氏名・年齢・電話番号・e-mail等の連絡先、今号の「any」の感想をご記入の上、1月31日(火)までにハガキ(当日消印有効)・FAX・e-mailでご応募ください。

A スマホ顕微鏡キット（3名）
スマートフォンにとりつけて顕微鏡として利用することができるキット。解説書付き。これがあればいつでもどこでも簡単にミクロの世界をのぞくことができる。

B Sandor Ellix Katz 著／水原文訳『発酵の技法』（1名）
世界中で伝えられてきた発酵食品の製法を食材別に解説。発酵文化の豊かさに気づかされる一冊。2016年、オライリー・ジャパン刊行。

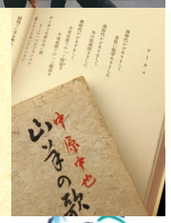
【あて先】〒753-0075　山口市中園町7-7
(公財)山口市文化振興財団
「any vol.99 特集プレゼント」係
FAX:083-901-2216　e-mail:any@ycfcp.or.jp
※当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

聴いた！観た！みんなのレビュー

◎大迫力の画面と映像、構成がすごい！人の営み、都会と農村、戦争の爪痕など奥行きのある内容で感動した。（50代男性　バンコクナイツ展「潜行ー千里」より）
◎太宰が中也を尊敬し、畏怖しつつ、口先では敬遠していたというエピソードはいかにも太宰らしくておもしろかった。（50代男性　特別企画展「太宰治と中原中也」より）
◎VR初体験でしたが素晴らしかったです！それぞれの視界や見方の差異、音など、とてもおもしろかった。（20代女性　「もしも、森のいきものになったら」より）

聴いた！観た！みんなのレビュー

◎展示物(モビール)と朗読CDが良かったです。特にオノマトペの部分は読んだ時と印象がかなり違って新鮮でした。（40代女性　企画展「中也、この一篇――サーカス」より）
◎いままで太宰には手を出していなかったが、とても現代的で古臭さを感じず、興味がわいてきた。（30代女性　特別企画展「太宰治と中原中也」より）
◎子どもの頃この本を読んでとても好きだったので観に来ました。とてもかわいくて楽しいお芝居でした。（30代女性　「わかったさんのクッキー」より）
◎仲が良くないエピソードのところで、少し笑ってしまいました。（20代女性　特別企画展「太宰治と中原中也」より）



新しい年、2017年が産声をあげました！

誕生したばかりの2017年ですが、山口情報芸術センター、中原中也記念館、山口市民会館の3館にとってどんな年になるのでしょう。新しい試みにも挑戦し、また違った各館の姿も見せてくれるかもしれません。anyでは、今後もそれぞれの館の特性がいかされた、ユニークで刺激的な催しをたくさん取り上げご紹介していきます。

A. グループ展「ヴァニシング・メッシュ」出展アーティスト：The SINE WAVE ORCHESTRA「nomadic」（2005）／B. きかんしゃトーマス　ファミリーミュージカル／C. ニューイヤーバンドフェスティバル（昨年開催の様子）／D. バンコクナイツ展「潜行ー千里」（2016）／E. 「Reactor for Awareness in Motion」ワークショップの様子／F. ニューイヤーバンドフェスティバル（昨年開催の様子）／G. 中原中也詩集「山羊の歌」より「サーカス」／H. グループ展「ヴァニシング・メッシュ」出展アーティスト：菅野創＋やんツー「SENSELESS DRAWING BOT」（2011）photo: 山上洋平／I. 市民コンサート（昨年開催の様子）／J. 企画展「中也、この一篇――「サーカス」」（展示の様子）／K. 「文楽への扉」in 山口　©diapositive／L. 中原中也18歳頃（1925年撮影）／M. 企画展「中也、この一篇――「サーカス」」（展示の様子）

山口情報芸術センター（YCAM）

http://www.ycam.jp/

Perception Engineering キックオフ―つなげる身体

2017年1月21日（土）　13:00〜20:00
会場：スタジオA

身体の可能性、その先へ

YCAMでは2010年より、「Reactor for Awareness in Motion（RAM）」と題して、テクノロジーからダンスを生み出す新しい方法について取り組んできました。ダンサー、振付家、プログラマーと、YCAMのスタッフとが共同で開発した、ダンスの創作のためのオリジナルのソフトやハードウエアを用いたワークショップを国内外で実施。また、2014年度には新作ダンス公演「Dividual Plays」を制作・発表しました。今年度は、取り組みの対象を、ダンスから私たちの学習やコミュニケーションにもたらす可能性へと広げ、さらに研究を推し進めています。その新プロジェクト「Perception Engineering（パーセプション・エンジニアリング）」のキックオフとして、YCAMで現在進行中の2つの共同研究プロジェクトについてご紹介するプレゼンテーションとワークショップを行います。参加すればきっと刺激的な1日となることでしょう。

RAMワークショップの様子（2014）

わたしはココに注目する！
ヴァーチャルリアリティ（VR）の技術や、コミュニケーション研究への応用など、これまでとは違う方向で身体の可能性を拓いていく新プロジェクト。こぎ出したばかりのこのプロジェクトが行き着く先には何があるのか!? そこにどんな可能性が秘められているのか!? その答えをプレゼンテーションから探ってみてください。

料金 ▌無料
［出演］笠原俊一（SONY CSL研究員）、熊谷晋一郎（東京大学先端技術研究センター准教授）、
　　砂連尾理（振付家、ダンサー）、YCAMスタッフ
［司会進行］伊藤亜紗（東京工業大学リベラルアーツセンター准教授）

グループ展「ヴァニシング・メッシュ」

2017年2月18日（土）〜5月7日（日）
会場：スタジオA、B、ホワイエ

急速に発展するメディアテクノロジーをとらえ、新たな表現へ挑む

YCAMでは、2月から5月までの約3カ月間、館内全体を使った大規模な展覧会を行います。国内2組のアーティスト“菅野創＋やんツー”と“The SINE WAVE ORCHESTRA”を招聘。それぞれの新作をここ山口で制作し、世界に先駆けてYCAMで初公開します。
“菅野創＋やんツー”は、2011年に、二重振り子の動きを利用してスプレーによって抽象的なラインを描画するドローイングマシーン「SENSELESS DRAWING BOT」を共同制作し、「第15回文化庁メディア芸術祭」アート部門で新人賞受賞。以後韓国の国際展「メディアシティソウル2012」や「札幌国際芸術祭2014」でも同ユニットで作品を発表、高い評価を集めています。また“The SINE WAVE ORCHESTRA”は、サインウェイブ（正弦波）を使用したライブや参加型インタラクションイベント、サウンドインスタレーションを企画、発表してきた、いま注目を集める4人組のアーティスト。そんな彼らが、近年のメディアテクノロジーの進展と、それにともなう社会や表現の変化を俯瞰しつつ、新しい試みに挑戦します。

菅野創＋やんツー　photo: 山上洋平「SENSELESS DRAWING BOT」（2011）

The SINE WAVE ORCHESTRA「in the sun」（2010）

わたしはココに注目する！
展覧会タイトルの「Vanishing Mesh（ヴァニシング・メッシュ）」とは、直訳すると「消失する網の目」。そこにどんな意味が込められているのか? ぜひ考えながら展示をご覧ください。

料金 ▌無料

イベントレポート

マシュマロ・レーザー・フィースト
「もしも、森のいきものになったら」（森のツアー）

森の中で作品を体験している様子
（山口市仁保・犬鳴の滝／2016）

YCAMでは去る10月、イギリスのアーティストグループ“マシュマロ・レーザー・フィースト”が手掛けるバーチャル・リアリティ（VR）作品を日本で初めて紹介するイベントを開催。山口の森にでかけて体験するバスツアーには、全国から集まった延べ48名の方が参加され、好評を博しました。トンボやフクロウ、カエルなどの森のいきものたちの目をとおしたかのような風景が360°見渡すことができるVR作品を、実際の森のなかの空気や風や匂いも感じながら五感を使って体感。また森のなかを散策し、植物を採取するバイオ・ワークショップも同時に行われ、DNAの解析方法の解説や、スマートフォンを使った顕微鏡で植物を覗き見るといった体験を通じ、自分たちの周りに存在する豊かで多様ないきものたちの世界を意識する刺激的な時間となったようです。

旅するYCAM

バンコクナイツ展
「潜行ー千里」

バンコクナイツ展「潜行ー千里」（YCAM／2016）

タイ、ラオスを舞台に撮影され、アジアの現在（いま）を独自の視点で描き出した映画集団・空族（くぐ）の長編劇映画「バンコクナイツ」。YCAMでは、映画「バンコクナイツ」と同じ行程を旅し、映画本編とは異なる視点で撮影・編集された映像インスタレーション作品「潜行ー千里」を2016年の秋、約1カ月半の会期で展示公開しました。4面+1面の巨大なスクリーンに映し出される躍動感あふれる映像と、臨場感に満ちた音響に包み込まれた会場内で、ただ静かにじっくりと作品に向き合う鑑賞者の姿を多く見かけました。本作は、次に東京都写真美術館で行われる「第9回恵比寿映像祭」（2/10〜26）へ巡回します。

聴いた！観た！みんなのレビュー

◎タイの方々の歌の意味が少しでも分かる工夫があれば良かったと思います。（50代女性　「バンコクナイツ・トリビュートライブ」より）
◎ここまで色々読んで知っていたとは、驚きました！（30代女性　テーマ展「中也の本棚――外国文学篇」より）
◎ロックミュージックとロッククッキーをかけていて、大人でもクスッと笑えました。迫力ある歌やセリフが印象的。（30代女性　「わかったさんのクッキー」より）
◎かつて住んでいたので懐かしい。感慨にひたっていました。（50代男性　「『バンコクナイツ』ジャパンプレミア爆音上映」より）

中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/

中也検定 これであなたも中也通?!

Q. 現在、中原中也記念館で開催中の企画展「中也、この一篇――「サーカス」」からの出題です。中也にとって自信作だった「サーカス」。友人・大岡昇平の回想によれば、中也に初めて会う人は大抵、「サーカス」の朗読を聴かされたといいます。詩の朗読会で「サーカス」を披露することもあり、中也独特の節回しは、聴衆の心に強い印象を残しました。ある詩人は、その朗読を聴いた時の記憶をもとに、後年、中也風に「サーカス」を朗読しています。さて、その詩人とは誰でしょうか?

1 高橋新吉
2 萩原朔太郎
3 草野心平

答えは14ページ

第14回テーマ展示

「私が選ぶ中也の詩」

2017年2月15日(水)～2018年2月12日(月・祝)

みんなで探る、中也の詩の魅力

没後80年を経ても、なお読み継がれている中原中也の詩。老若男女を問わず多くの人に愛されるその魅力についてあらためて問い直します。展示では、中也の詩に親しまれているアーティストの方々にお気に入りの詩を選んでいただき、コメントとともに紹介します。また、平成26年に刊行した『出会い? 発見?! 感動!! 中也読本』より、山口市の中学生が選んだ中也の詩を展示します。さらには、中也の友人たちなど、中也と同じ時代を生きた人々が、中也の詩をどう読んだのかについても紹介します。そして、好きな中也の詩の魅力について、来館者がアンケートを通じ発信できるコーナーも設置します。中也を通じて、人それぞれの多様な感性とふれあえる展示です。

中也18歳頃

わたしはココに注目する!

自分の心が中也の詩のどこに共鳴するのか。アーティストの方々、中学生、中也と同時代を生きた人々、そして来館者同士。自分と同じところ、違うところを、中也の詩を楽しみながら発見してみてはいかがでしょう。

入館料 一般 320円(270円)／大学生 210円(162円)
※あわせて企画展もご覧いただけます。 ※18歳以下、70歳以上は無料 ※( )内は20人以上団体料金

中也を味わう

詩人は辛い

私はもう歌なぞ歌はない
誰が歌なぞ歌ふものか

みんな歌なぞ聴いてはゐない
聴いてるやうなふりだけはする

みんなただ冷たい心を持つてゐて
歌なぞどうだつたつてかまはないのだ

それなのに聴いてるやうなふりはする
そして盛んに拍手を送る

拍手を送るからもう一つ歌はうとすると
もう沢山といつた顔

私はもう歌なぞ歌はない
こんな御都合な世の中に歌なぞ歌はない

―一九三五・九・一九―

【解説コメント】

中原中也記念館では、平成26年、山口市内の中学校の図書委員を対象に、好きな中也の詩についてアンケートを実施しました。その際、「月夜の浜辺」や「一つのメルヘン」など国語の教科書でもおなじみの詩よりも票を集め、好きな詩ランキング堂々第4位に入ったのがこの「詩人は辛い」です。また、今から20年前に当館が行った、好きな中也の詩アンケートでは、年代別のランキングで、10代の第1位がこの詩でした。ちなみに、他の年代では10位以内にも入っていません。一般的にはあまり知られていない「詩人は辛い」ですが、10代の孤独な心を代弁するような魅力が今も昔もあるのでしょう。ちなみに、この詩を書いた時、中也は28歳でした。

観た!聴いた!みんなのレビュー

◎青森の太宰と山口の中也が出会うとは、距離などお構いなしの、とても不思議なことだと思いました。文ストの展示も素晴らしかったです。(10代女性 特別企画展「太宰治と中原中也」より)
◎映画「バンコクナイツ」を見なかったのが悔やまれる。(70代以上男性 バンコクナイツ展「潜行一千里」より)
◎ゆあーんのモビール展示は、アート性があり良かった。(30代女性 企画展「中也、この一篇――サーカス」)

山口市民会館

http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/

第44回市民コンサート ～あの名演奏をもう一度

2017年3月20日(月・祝) 13:00開演(予定)
会場:大ホール

心に残る名演奏を分かち合う

年度内に開催された各種音楽コンクールにおいて優れた成績を収めた方々や、日頃から熱心に音楽活動を続けている方々をお招きし、演奏を披露していただく「市民コンサート」。毎年3月の春分の日に行われる本コンサートは、市民のみなさんと音楽を通じて交流できる大切な企画であり、市民会館の伝統ある行事となっています。44回目を迎える今年はどんな演奏者がどのようなプログラムを私たちのもとに届けてくれるのでしょう。素敵な音楽との出会いに、胸が高鳴ります。市内中高生で編成されたジュニアオーケストラの演奏にもご注目を。ぜひご家族、お友達を誘って、心に残る名演奏の感動を分かちあいましょう。

演奏:山口ジュニアオーケストラ(昨年の様子)

わたしはココに注目する!

フィナーレを飾る山口ジュニアオーケストラで指揮をされる山口中央高校の西村先生に今回の注目ポイントを教えていただきました。「私たちは毎年、沢山の演奏者を必要とする本格的なシンフォニーを演奏しています。今年は、フィンランドの作曲家・シベリウスの交響曲第2番より、第4楽章を演奏します。北欧の重厚かつ壮麗な音楽に市内の中学生、高校生が挑戦します。どうぞお楽しみに。」(山口ジュニアオーケストラ指揮:西村正浩)

料金 無料

きかんしゃトーマス ファミリーミュージカル「ソドー島のたからもの」

2017年3月11日(土) 12:00開演／14:30開演
会場:大ホール

トーマスやパーシーに会いに行こう!

トーマスとパーシーがテレビから飛び出してステージを駆け巡る「きかんしゃトーマス」のファミリーミュージカル。ここでしか見ることのできないオリジナルストーリーに、映像も駆使した迫力満点のステージで、全国各地の子どもたちに人気を博しています。そんなわくわく、ドキドキがたっぷりつまったミュージカルがついに山口に。
今回のお話は、「ソドー島のたからもの」。古いソドー島の地図にのっている宝の場所を探していたトーマスは、誤って見知らぬ線路に迷い込んでしまう。パーシーや見習い機関士のケンが、暗い森の中でトーマスを発見したとき、ソドー島の宝物もあきらかに…。さあ、どんな結末が待っているのか!?

わたしはココに注目する!

テレビとは違う生のステージはきっと子どもたちにたくさんの思い出を残してくれるでしょう。ぜひ一緒に歌ったり踊ったり体全体でステージを満喫してください。また当日はオリジナルグッズがもらるなど、たくさんのお楽しみもありますよ!

チケット情報 発売中
料金 全席指定 前売 一般 2,800円 any会員 2,500円 ファミリー券(4枚以上購入の方) 2,500円 ※2歳以上有料

■いずれの公演も当日券は会員割引の対象外となります。 ■特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
■特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

mini PICK UP!

第21回ニューイヤーバンドフェスティバル2017

2017年1月14日(土)
10:00開演
会場:山口市民会館 大ホール

演奏:小郡南小学校(昨年の様子)

山口市内の小学校、中学校、高校、大学、社会人の吹奏楽・管弦楽の団体が、山口市民会館に一堂に集う新年の恒例イベント、ニューイヤーバンドフェスティバル。クラッシックからポップスまでさまざまな吹奏楽の音楽を一度に味わうことができ、毎年楽しみに聴きに来られる方もいらっしゃいます。今回はどんな曲目をどの団体が披露するのでしょう。演奏者たちの日頃重ねてきた練習の成果と、音楽に傾ける情熱が伝わってくるコンサートへ、ぜひ感動を味わいにお越しください。

[料金] 無料

mini PICK UP!

ながと近松文化講座「文楽への扉」in 山口 ～人形浄瑠璃文楽講座～

2017年1月29日(日)
17:30開演
会場:山口市民会館 小ホール

©diapositive

日本を代表する伝統芸能の一つ、人形浄瑠璃文楽について、第一線で活躍される方々をお招きし、その魅力を分かりやすく解説する「文楽講座」が、長門市の劇場ルネッサながとの連携企画として、山口市民会館にて行われます。文楽の成り立ちや歴史、作品の解説、近松作品の楽しみ方など、人形浄瑠璃を楽しむためのヒントがたくさん詰まった講座です。江戸時代初期に誕生し、いまや世界的にも高い評価を得ている文楽の奥深い世界に触れることができるまたとない貴重な機会。どうぞお見逃しなく!!

[料金] 無料
[定員] 中学生以上400名(要申込)

any通信

「コケコッコー」
元気よく響く鳴き声が
新しい年の始まりを告げます。

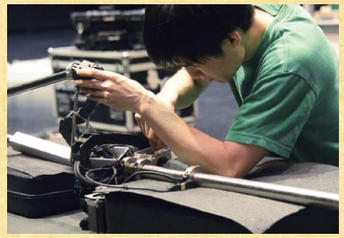
未来の詩人たち、集まる。

「第1回ぼうしの詩人賞」受賞者たち

帽子をかぶった中也の写真のイメージから名付けられた「ぼうしの詩人賞」は、山口市内の小・中学生に「中原中也」や「詩」に触れる機会をもってもらおうと、2016年に創設された創作詩のコンクールです。第1回目となる今年度は、最優秀賞に小学2年生の詩が、優秀賞には4名の中学生による詩が選ばれました。10月22日、中也の命日にあたるこの日、中原中也記念館で表彰式と入選者本人による作品朗読会が行われ、緊張した面持ちで朗読をはじめた小・中学生のみなさんのまっすぐで澄んだ声が館内に響きました。自身も朗読を好んだ中也にもきっと届いたことでしょう。入選した5作品は、来年の1月まで館内に展示しています。もちろん直筆ですよ。その新鮮な感覚をじっくり味わってください。

メディア・アートの修復に挑みます。

2010年にYCAMでの滞在制作を経て世界初公開された、アーティスト三上晴子さんのインスタレーション作品「欲望のコード」。発表後は国内外7カ所を巡回したほか、12年には文化庁メディア芸術祭で優秀賞を受賞するなど、YCAM委嘱作品の中でもとりわけ評価の高いもののひとつとなっています。しかし、三上さんが15年1月に急逝されたあと、作品の巡回・再展示にあたっての必要な協議が困難に。また過去の巡回展で破損し、修復が必要な状況にありました。そこで、YCAMは今後この作品が巡回・再展示できるよう、関係者、技術スタッフ、アーティスト等に協力を依頼し、一から作り直す作業も含めた修復を試みることになりました。技術や機材が次々に更新されていく現代において、メディア・アートの保存・修復はどこまで可能なのか、YCAMの挑戦が始まっています。



修復作業の様子（2016年10月）

ARTIST VOICE アーティスト ボイス

カニエ・ナハ（詩人、デザイナー）

新鮮な感覚を備えた優れた現代詩の詩集に対し贈られる中原中也賞。その21回目の中也賞に選ばれたカニエ・ナハさん。これまで4度も山口を訪れる機会があり、すべて中也が結んだ縁での訪問なのだとか。カニエさん、あなたにとって山口はどんな場所ですか？ …え!? あったかくって、ぽっかぽか？

湯田温泉が、恋しいです。

湯の香通りの足湯につかっていると、中也がやってきて、私の斜向かいに座って足湯につかる。「いい湯だな。」と中也。「いい湯だね。」と私。「ゆあーん　ゆよーん」と中也。「ゆやゆよん」と私。……湯の香通りの足湯につかりながら、いい気分で、私はそんな妄想をしていました。湯田温泉から帰って、なにより淋しかったのは、私のまちに足湯のないことで、湯田温泉のみなさんが、あんなにいつもあったかいのは、きっとその理由の何パーセントかは足湯の効果なのでは、と想像しています。湯田温泉駅前で巨大な白狐に出会って驚きましたが、中也の「汚れつちまつた悲しみに……」に出てくる「狐の革裘」は、あの狐となにか関係があるのでしょうか。私はあの駅前の白狐みたいに巨大な悲しみを想像して、ふるえる思いがしました。こんなときにはいますぐに、足湯につかってあたたまりたい。湯田温泉が、恋しいです。

第21回中原中也賞贈呈式

2016年4月29日
会場：ホテル松政

中也記念館の前庭で行われた中也生誕祭「空の下の朗読会」に、カニエ・ナハ氏も登場。マントと帽子を着用し、中也と見紛ういで立ちで現れ朗読するその姿に、会場は大いに盛り上がった。生誕祭終了後には、場所をホテル松政に移し、第21回中原中也賞の贈呈式が行われた。昼間とは打って変わってスーツ姿に身を包み、緊張の面持ちで式に臨むカニエ・ナハ氏を、その場に集まった大勢の市民や選考委員、関係者らが温かく迎え、21人目の受賞者の誕生を祝う喜びの空気に会場は包みこまれていた。

カニエ・ナハ　KANIE Naha

1980年生まれ。東京在住。2010年ユリイカの新人、15年エルスール財団新人賞現代詩部門、16年詩集『用意された食卓』で第21回中原中也賞を受賞。詩集に『オーケストラ・リハーサル』『MU』など。装幀作品に暁方ミセイ著『ウイルスちゃん』『ブルーサンダー』など。詩作やデザインのほかに、朗読を中心に、ドラマ出演や映像作品への声の出演など、多方面で活躍中。

聴いた！観た！みんなのレビュー

◎フクロウの視点が思っていたのと違って驚いた。動物の視点になれる日が来るとは!! また見たいです。（30代女性　「もしも、森のいきものになったら」より）
◎なぜ仲が悪いと言われているのか、その元となる発言や2人が出会うきっかけについてたどることができた。（20代女性　特別企画展「太宰治と中原中也」より）
◎読書コーナーに、今回のテーマ展に関連した本「複刻版」等が、手にとって読めるようにしてあるとよかった。（30代女性　テーマ展「中也の本棚――外国文学篇」より）

お先に試写しました

© Navigator Film 2014

「グレート・ミュージアム　ハプスブルク家からの招待状」

（2014年／オーストリア／94分／カラー）
［監督］ヨハネス・ホルツハウゼン　［出演］ザビーネ・ハーク（ウィーン美術史美術館総館長）ほか

2015年のゴールデンウィークで特集し大変好評を得たYCAMシネマの美術館映画特集第2弾です。今回は、ウィーン美術史美術館に焦点を当てた「グレート・ミュージアム　ハプスブルク家からの招待状」をご紹介します。
645年間君臨したハプスブルク家の歴代皇帝たちが蒐集した膨大な数の美術品を所蔵するウィーン美術史美術館。収蔵作品は、ブリューゲル、クラーナハ、フェルメール、カラヴァッジオ、ベラスケスから絢爛豪華な美術工芸品まで多種多彩。日本人来場者数も年間7万人以上あるという世界屈指の美術館です。その120周年の節目の大改装の様子をカメラは追いました。
伝統ある美術館にも容赦なく押し寄せるグローバル化の波。「伝統の継承」と「大胆な革新」の両方をどう成立させるのか。館長、学芸員、修復家、美術史家あらゆるスタッフたちが意見を交わしつつ、それぞれの仕事を遂行し美術館が運営されていく。映画が映し出すのは、現実と格闘し、互いの理想を求めてぶつかり合うスタッフたちの静かな戦いの日々。YCAMに勤めている私も、本作を見て、世界中全く同じことをやっているんだなあと感慨深くなりました。ナレーションやインタヴュー、音楽を一切排したダイレクトシネマの手法を用いて撮影された本作は、第64回ベルリン国際映画祭で斬新な手法で意欲的なテーマを描いた作品に贈られる「カリガリ賞」を受賞しました。みなさんにもぜひ見ていただきたい、美術館「の裏側」映画です。

杉原永純（YCAM シネマ担当）

2017年1月21日（土）、22日（日）、27日（金）、28日（土）、29日（日）
※詳細タイムテーブルはYCAMポータルサイトをご確認ください。
会場：山口情報芸術センター　スタジオC
［料金］一般 1,300円
any会員・特別割引・25歳以下 800円

© Navigator Film 2014

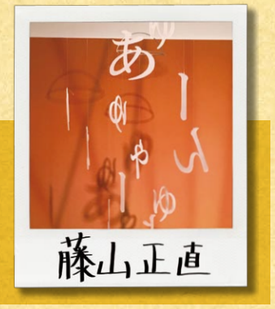
「グレート・ミュージアム　ハプスブルク家からの招待状」作品紹介

ウィーン美術史美術館の創立120年の節目に取り掛かった大規模な改装工事に密着。まるで宮殿のような豪華な装飾、美術品の収蔵庫、修復作業場、閉館後の館内や会議室など、ふだん見ることのできない美術館の姿をたっぷりと堪能できる。偉大な美術館の裏側とそこで働く人々の姿を丁寧に描いたドキュメンタリー映画。

My Favorite

「ゆあーん　ゆよーん　ゆやゆよん」が揺れています。「ゆあーん　ゆよーん　ゆやゆよん」と揺れています。企画展「サーカス」の中で揺れています。このモビールを見ていると、「ゆあーん　ゆよーん　ゆやゆよん」と揺れてみたいなぁと思わせる、心落ち着く不思議な魅力がありますよ。

藤山正直（中原中也記念館 職員）



聴いた！観た！みんなのレビュー

◎4才の子も楽しめた様でした。「クッキー作りたくなった！」と言うのでご一緒に作ろうと思います。（30代女性　「わかったさんのクッキー」より）
◎太宰と中原に共通する精神性にフォーカスを当てた非常におもしろいテーマを感じた。（20代男性　特別企画展「太宰治と中原中也」より）
◎いろいろな角度が見られて楽しかった。音と振動で映像をリアルに感じた。（10代男性　「もしも、森のいきものになったら」より）
◎コレ目的で来ました。宮沢賢治の詩がネタなんですね。金沢が舞台なのも知りませんでした。（30代女性　企画展「中也、この一篇――サーカス」より）

いらっしゃいませ

オリジナル・ランチボックス
700円

栄養満点、おいしさが身体にしみます

ヤマキッチンでは毎週土曜に特製のランチボックスを販売。さて今週は？ おお、箱からあふれんばかりのチキンカツ！ なかはジューシーで外はカリッ、うーんおいしい。秋シャケの西京焼きには特製の麹が使われてほんのり甘い。里芋とクリームチーズのマカロニポテトサラダはねっとりもっちりで絶品！ 炊き込みご飯に混ざっているのは“むかご”という山芋の葉の付け根にできる球芽、いわば山芋のあかちゃんなんだとか。初めて食べる食感です。それになめこと白菜のスープもついて超豪華。旬で栄養価の高いお野菜がふんだんに詰め込まれ、おいしさと栄養が身体にしみる～。ほかにも旬の食材を使ったドリンクやスイーツもあって毎週通いたくなっちゃいます。

ヤマキッチン（YAMA KITCHEN）
山口市中園町7-7（山口情報芸術センター内）
営業期間：毎週土日11:30～15:30
店休日：年末年始、その他不定期で休みあり
問い合わせ・予約：yama-kitchen@ycam.jp

GOOD GOODS

ヤマキッチン×シマセラミカ
オリジナルガラス容器

作家さんとのコラボによるヤマキッチン印のグッズ

宇部市の陶芸作家“シマセラミカ”による理化学ガラスの作品シリーズ“shima glass”に、「ヤマキッチン」のロゴが入った蓋つきのオリジナルガラス容器が登場しました。耐熱性なので、温めに使うもよし、調味料の保存器として使うもよし。また、アクセサリーなどの小物を入れるための器にして、見せる飾りにしても素敵ですよ。販売はヤマキッチンのみ。ほかにも木の温かみの伝わるスプーン、バターナイフ、ボード、オーガニックコットンのベビービブなどシマセラミカさんセレクトの商品も並びます。ぜひ土日開催のヤマキッチンをのぞいてみてください。

価格：2,745円（税込）

1 January　2 February　3 March

※掲載内容は2016年12月1日現在のものです。変更の場合がありますので、ご了承ください。

山口情報芸術センター（YCAM）

http://www.ycam.jp/
※年末年始のお休み12／29〜1／3

■シネマ
毎週金曜の夜に【金曜夜のYCAMシネクラブ】、日曜に【YCAM名画座】を開催しています（※休映日あり。詳細は、YCAMポータルサイトまたは『YCAMシネマプログラム』をご覧ください。）

- 1/21　Perception Engineering キックオフ（本誌P9参照）
- 1/28　YAMA KITCHEN ワークショップ「キムチのオンギ」
- 2/11　YCAM バイオ・リサーチ・オープンデイ「細胞と遺伝子」（本誌P2〜7参照）
- 2/18〜5/7　グループ展「ヴァニシング・メッシュ」（本誌P9参照）
- 2/25　YAMA KITCHEN ワークショップ「ぬか床のかめ・樽」
- 1/6 9 12 15　「八重子のハミング」
- 1/6 9 12 15　藤田敏八監督特集
- 1/21 27 29　「フィレンツェ、メディチ家の至宝」
- 1/21 22 27 29　「グレート・ミュージアム　ハプスブルク家からの招待状」（本誌P13参照）「フランコフォニア」
- 2/4 5　作品未定
- 2/11 12　作品未定
- 2/18 24 26　「アンジェリカの微笑み」
- 2/18 19 25 26　マノエル・ド・オリヴェイラ監督追悼特集“永遠のオリヴェイラ”
- 3/3 5　映画の背中を見てみよう―フィルム de アニメ
- 3/4 5　「映画の背中を見てみよう」関連企画　映写室見学ツアー
- 3/11 12 17 18　「ダゲレオタイプの女」（予定）「淵に立つ」（予定）
- 3/19 20　作品未定
- 3/25 26　作品未定

山口市民会館

http://www.yamaguchi-civichall.com/
※年末年始のお休み12／29〜1／3

- 1/14　第21回ニューイヤーバンドフェスティバル2017（本誌P11参照）
- 1/29　「文楽への扉」in 山口（本誌P11参照）
- 3/11　きかんしゃトーマス　ファミリーミュージカル（本誌P11参照）
- 3/20　第44回市民コンサート（本誌P11参照）

中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/
※年末年始のお休み12／27〜1／3

- 開催中〜2/12　第13回テーマ展示「中也の本棚――外国文学篇」
- 開催中〜4／16　企画展Ⅱ 中也、この一篇――「サーカス」
- 2/15〜2018／2／12　第14回テーマ展示「私が選ぶ中也の詩」（本誌P10参照）
- 1/27　中原中也を読む会
- 2/24　中原中也を読む会　会場：山口情報芸術センター
- 3/24　中原中也を読む会

［マーク説明］　体験する　参加する　聴く　観る

INFORMATION

■公演チケットのお求めについて

山口市文化振興財団が主催・共催する公演チケットは以下の方法にてご予約・ご購入ください。

予約方法

インターネット　山口市文化振興財団ホームページ（要事前登録・24時間受付）
http://www.ycfcp.or.jp/
※any会員の方は先行予約初日の10:00より、一般の方はプレイガイド発売日の10:00より受付開始。

電話　チケットインフォメーション（10:00〜19:00　※火曜休館・祝日の場合は翌日）
TEL. 083-920-6111

窓口　チケットインフォメーション（10:00〜19:00　※火曜休館・祝日の場合は翌日）
山口情報芸術センター
※先行予約初日はインターネットまたはお電話のみの受付となり、窓口のご利用は翌日からとなります。

支払方法

クレジットカード　インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。
チケットのお受け取りはお近くのセブンイレブンまたは山口情報芸術センターにお越しください。

セブンイレブン　インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。
お近くのセブンイレブンでお支払いいただけます。チケットはその場でお受け取りください。

窓口　※上記予約方法「窓口」参照

■託児サービスについて

山口市文化振興財団では
託児サービスを行っています。
※おもちゃ、おむつ、着替え等必要なものはご持参ください。
お子様の食事は事前に済ませておいてください。

公演開催時

[対象] 0才（6ヶ月）以上
[料金] 1人につき500円、
2人目以降は1人につき300円
[時間] 開演の30分前から終演後30分まで
[申込方法] 公演日の1週間前までに左記チケットインフォメーションまたは山口情報芸術センターにてお申し込みください。
※公演によっては行わない場合もございます。
事前にお問い合わせください。

山口情報芸術センター　キッズスペース

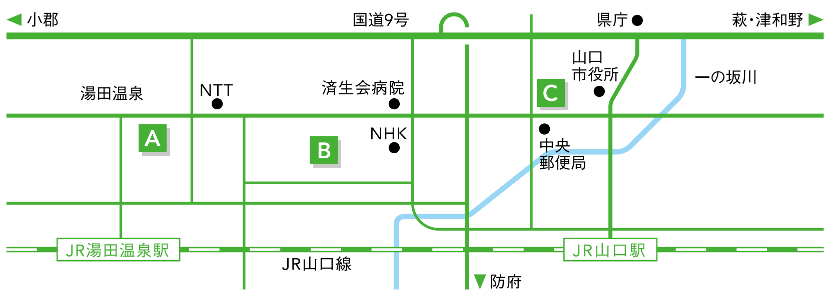
[対象] 1才以上
[料金] 1人につき30分150円
[時間] 13:00〜17:00　1回2時間まで
（山口市立中央図書館休館日を除く）
[申込方法] 当日、山口情報芸術センターにてお申し込みください。満員の際は順番制となります。

any（エニー）会員募集!

※入会方法等、詳しくはお問い合わせください。

any会員は、山口情報芸術センターや山口市民会館などで行われる財団主催・共催の公演や展示、ワークショップ等の情報をいち早くお知らせし、楽しんでいただくための友の会です。公演のチケットが一般の方よりも安く、早く購入できるなどの特典があります。

[年会費] 1,500円+入会金500円　※会員期間内に更新される場合、入会金は不要です。
[会員期間] 入会日から翌年の入会月末まで
[会員特典] チケットの先行予約および割引購入（公演によっては適用されないものもあります）、情報誌の無料送付、YCAMシネマ・中原中也記念館招待券プレゼントなど



公益財団法人
山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion
〒753-0075　山口市中園町7-7（山口情報芸術センター内）
TEL. 083-901-2222 ／ FAX. 083-901-2216
http://www.ycfcp.or.jp/　zaidan-info@ycfcp.or.jp

編集後記

みなさんお気づきかもしれませんが、次号でついに本誌は100号に! もしかするとどこかリニューアルされているコーナーがあるかも!? と期待させておいて、ないかも…。結果は次号にてお確かめください。[M.D]
2017年の手帳を購入しました。いつも頂き物を使用していた私ですが、1年の計は手帳にあり（!?）と思い立ったのです。ページが埋まるくらい計画的で充実した年になるよう活用します! [T.I]

A 中原中也記念館
〒753-0056　山口市湯田温泉1-11-21
TEL. 083-932-6430 ／ FAX. 083-932-6431
[開館時間] 9:00〜18:00（入館は17:30まで）【5〜10月】
9:00〜17:00（入館は16:30まで）【11〜4月】
[休館日] 月曜（祝日の場合は翌日）、毎月最終火曜（変更あり）、年末年始
http://www.chuyakan.jp/　chuyakan@c-able.ne.jp

B 山口情報芸術センター（YCAM）
〒753-0075　山口市中園町7-7
TEL. 083-901-2222 ／ FAX. 083-901-2216
[開館時間] 10:00〜20:00（夜間イベントのある日は22:00まで）
[休館日] 火曜（祝日の場合は翌日）、年末年始
http://www.ycam.jp/　information@ycam.jp

C 山口市民会館
〒753-0074　山口市中央2-5-1
TEL. 083-923-1000 ／ FAX. 083-928-8488
[開館時間] 8:30〜17:15　[休館日] 年末年始
http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/　shiminkk@c-able.ne.jp

中也検定 答え
A. 3 草野心平
（この朗読はレコード『中原中也の世界』（1974年、中央公論社）に収録され、中原中也記念館でも聴くことができます。）

観た！聴いた！みんなのレビュー
◎街を歩くように、旅するように流れていく映像たちにワクワクしました。（20代男性　バンコクナイツ展「潜行一千里」より）
◎色んなものを違うものに見立てて、小道具に使うのがおもしろかったです。（20代女性　「わかったさんのクッキー」より）
◎詩集を読むだけでは分からない、その時中也が何を読んで、どう感じたのかがとても分かりやすかった。（10代女性　テーマ展「中也の本棚――外国文学篇」より）
◎5枚のスクリーンで後ろにも振り返らなくてはいけず、そこにおもしろさを感じた。（20代男性　バンコクナイツ展「潜行一千里」より）

公益財団法人
山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion